

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4790100087		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム大道が丘		
所在地	沖縄県那覇市大道94番地3 3F		
自己評価作成日	平成29年1月26日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan1=true&jigyosyoCd=4790100087-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モノレール駅近くに位置した閑静な住宅街にある。医療法人陽心会、有限会社ヘルスサポート、社会福祉法人陽風会系列の介護保険事業所が近隣にあり、事業所間の連携が図られやすい条件にある。4階建ての建物で、(1F)地域交流室(2F)小規模多機能型ホーム(3F)グループホーム大道が丘(4F)グループホームたかまーみの家からなる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人母体が医療法人のため、状態変化に応じた多様なサービスが選択できる機会があり、同建物内に小規模多機能事業所、他グループホームが併設され、介護施設やクリニックも近隣にあり連携がとれている。建物の1階は地域交流室となっており地域のサークル活動の場として利用され、事業所の行事で成果を披露してもらっている。同建物内の他事業所と相互に連携を取り、利用者が散歩がてら訪問したり、新聞を借りに行ったりと交流することで気分転換になっている。食事は3食事業所内で調理され職員が1週間分の食費をやりくりし行事や季節を考えた食事ができるよう工夫している。事業所周辺の清掃を継続し地域の方と顔見知りとなり、挨拶を交わしたり家庭菜園で収穫した野菜を頂いたりしている。書類が整理整頓されており、ヒヤリハットや事故防止のための改善案を文書化して職員は共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 3月24日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を理解した上でケアの提供が行えている。また、その理念を職員や利用者、家族が見やすい場所に掲げて毎朝職員全体で唱和している。	理念は毎朝ミーティングで唱和している。理念に基づいた事業所方針を作成し、毎日の業務で理念に沿ったケアができているか、再確認している。職員も日々のケアの中で困ったときは基本理念に立ち戻り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会へ加入、各行事等の集まりや活動に参加している。近隣住民と話をしたり、年1回程度は協働で木の伐採や片付けを行う事もある。地域交流センターを開放して月に1回程度は、活動している地域の皆様と交流を持つことができている。	建物内の地域交流センターを利用するサークルが事業所行事の際、余興を披露している。那覇市内で行われる法人の行事に利用者と職員が一緒に参加している。職員が毎朝周辺道路を掃除し近隣住民と挨拶を交わしたり、収穫した野菜を届けにくることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流センターを利用している地域の方とは、行事計画などを通じて、事前に話をしたり、活動時に行事の参加を通じて利用者の認知症の状態や介護の対応を簡潔に説明する等の機会を持てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的には2ヶ月に1回開催し報告や話し合いを行い、各代表からの意見を頂き、可能な範囲で改善に努めている。	運営推進会議は同建物内の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月に1回行っている。GHが主体となる会議には利用所と家族代表が参加している。地域の意見を反映することと事業所での活動を地域へ発信することなど改善点の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市ちゃーがんじゅう課窓口に、定期的に、施設の空き状況や相談を行い、地域包括支援センター担当者とも適宜情報交換を行っている。	那覇市のポイント制度のボランティアを受け入れ、利用者の話し相手になってもらい好評である。ケアプランの提出や困難事例の相談などで行政窓口へ出向いている。研修などの連絡もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員や利用者が閲覧できるよう、身体拘束マニュアルを設置し、適宜適応事例を踏まえて勉強会で考え方を再認識できるように話し合いを行っている。	法人での研修に参加し、身体拘束をしないケアの理解を深めている。身体拘束しないためのマニュアルを常に職員が閲覧できるようにファイリングしてある。勉強会は事例に基づき、問題点を具体的に考えられよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、常に職員が利用者の状態を意識し、身体面やメンタル面に変化や異常が無いかを確認している。		

沖縄県(グループホーム大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してのマニュアルを開示し、職員や利用者、家族が自由に閲覧できる場所に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に重要事項説明書等で十分に説明し、理解して頂いたうえで契約の締結、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、責任者へ報告できるようになっていたり、家族と面会時には意識して確認を行っている。	利用者の意思や思いは、日々のケアの中や担当者会議等で聞いている。家族からは面会時や運営推進会議で意見や要望を聞き事業所看板が分かりにくい、何をやっている所なのか事業所の様子が分かるような「お便り」があればと、という意見があった。意見箱も玄関に設置している。	家族の意見を反映し、看板の設置や事業内容を地域にわかりやすく広報する等の工夫と、人と情報の交流の活発化を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や各種ミーティング開催し報告や話し合いが行え、職員の意見や提案に反映させている。	職員の意見は、朝のミーティングで意見交換できるようにしている。個別に話し合いを設けることもある。意見の反映には事業所方針に基づき判断している。勤務表が分かりにくいとの職員の意見があり、1月ごとの勤務表に変更し改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態や諸事情を踏まえて勤務シフトを作成して勤務、無理のない労働環境を確保、外部研修等の受講、資格習得による手当等反映するなど、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加できるように配慮し、また月1回程度の会議の実施や職員研修計画に基づいて勉強会(事業所内/法人単位)を実施、年1回、事業所内でテーマを決めて、年末に研究発表を行う機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時などに、他事業者の方とのスキル交流(勉強会)が行えており、法人主催の勉強会で他職種の分野にもふれる機会もあり、内容の拡大充実に努めている。		

沖縄県（グループホーム大道が丘）

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には、必ず本人との面談を設け、本人の要望を確認し信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の苦労や今までの生活情報などを聞いて、事業所がどのような対応ができるか、又は家族に協力して頂く事等を話し合うことができている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら問題点の解決に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対し常に人生の先輩である意識を持ち、普段からコミュニケーションを多く持ち、和やかに生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は一人ひとりの利用者の家族の方との時間を多く持ち、個性などが発揮できるような支援を心がけている、毎年家族もお招きする行事を実施して、本人並びに家族間の交流を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者家族や知人、友人等に対して、交流を希望する場合、積極的に受け入れ、関係が途切れないように支援を行っている。	利用者は、家族の行事や季節の行事の際には外出や外泊をすることができる。法人内の別事業所にいる知人と交流することもある。地域で商売をしていた利用者は元顧客と出会うことがある。入居する前からの美容室や買い物に家族と出かけたり関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、日々の関わりをすべての職員が共有して利用者同士で良好な関係が保てるように、その変化に応じて支援を行う等の配慮に努めている。		

沖縄県（グループホーム大道が丘）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要性があれば、現在の支援者の支援状況や立場も踏まえて、相談などや制度の活用について間接的に関わっていけるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ把握するように努めている。言葉や表情、行動から本人が今何を望んでいるかを見極めるように努めている、又そこで得られた情報は、関係職員や家族で共通理解している。	職員の居室担当制を取り入れている。日ごろのケアで利用者の行動の意味を理解するように心がけている。意向の表出困難な利用者の思いをくみ取るための勉強会（ひもときシート）を行ない実践に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの情報や、家族などから今までの生活や暮らし方、大切にしてきた事等を確認するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを通じて職員全体で介護計画の作成、見直しに努めている。	介護計画は本人、管理者、ケアマネ、職員が担当者会議で作成している。介護計画の見直しは更新時や状態に応じ行っている。見直し後のモニタリング情報は朝のミーティングや文書で共有している。利用者の個性やこだわりはプランに反映し、満足して過ごすことができるよう職員の話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況変化等は、申し送り簿の記録をツールで共有し、詳細を介護カルテに転記し、職員間で情報共有を徹底し、実践や介護計画への効果的な反映に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の状態に応じて共同生活の満足度を高めるように努力しています。		

沖縄県（グループホーム大道が丘）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との関わりが出来るように、地域住民や民生委員へ働きかけやボランティアへの協力、法人単位での地域イベントや行事への参加の機会を持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医で受診できるようになっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している※他院主治医を含む。2週に1回/個別1回（合計3回）は訪問診療も実施している。	入所前のかかりつけ医を継続し、受診の際は家族が付き添っている。地域の歯科、皮膚科等専門医に往診を依頼することもある。法人の医療機関から医師が定期的に診療に訪れている。緊急時は法人の救急診療科へ搬送し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは、気軽に相談できる関係にあり、看護師と連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人が施設で受けていた支援、身体、健康上の情報を医療機関に提供し、病院関係者との情報交換や病院カンファレンスへの参加、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用契約時、サービス担当者会議の場面を含めて、施設で重度化した場合、看取りを行わない方針、施設の体制、機能を家族に説明、施設種別の変更や医療機関への搬送する等の個々の状態に応じて対応する事を都度説明している。	重度化や終末期のあり方については、事業所でも対応できること、出来ないこと、看取りは行わない方針であることを説明し明文化している。状態変化時に家族と主治医を交えて話し合い、医療行為が必要な場合は母体医療法人の病院と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時などは、マニュアルを設置しており、全職員で急変時の事例検討やディスカッション等を通じて再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法などの訓練を年2回実施しており、緊急時に全利用者の避難ができる体制の構築に努めている。	昼夜想定避難訓練を年2回、同法人の小規模と合同で実施している。ビルの3階で避難方法が難しいが、近隣の同法人の事業所や近隣住民との協力体制を築いている。グループホームでの備蓄は買いだめの食材等だが、法人で避難マニュアルや備蓄など準備されている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所基本方針で、全職員が日常的に「その人らしさ」を尊重し、日々の声かけや接し方等に配慮する支援に努めている。	日ごろの入居者との関わりの中でセンター方式の活用により、本人の希望やおもいの把握に努め、さまざまな要望に応じている。利用者の誇りやプライバシーを損なわないように、一人一人にあった言葉使いをするよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方にはジェスチャーや表情の変化を確認して、本人が希望する事などを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、行事などへの参加時には化粧をしたり、お祝いに合わせた洋服選びが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者の方と下ごしらえと一緒にしたり、出かけている。職員は利用者一人ひとりの嗜好を把握しており、食事が楽しめるように色合いや食器配膳の工夫に努めている。	職員が1週間分の予算内でメニューを決め、買い物や行事の時のためにやりくりし、季節に合う食材を使い3食とも事業所で調理している。手伝える方は野菜の下ごしらえをおこなっている。食事前に口腔体操や食事内容を丁寧に説明し職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況(本人の好き嫌い等も含めて)を毎日記録し、職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、利用者に応じて個別に介助している。		

沖縄県(グループホーム大道が丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。排泄後は、その都度排泄チェック表に記録し個別の排泄パターンの確認と職員間の共有に努めている。	排泄チェック表を活用し、パターンを把握しトイレ誘導している。ほとんどが見守り支援だが夜間、安心のためにポータブルトイレを使用する方もいる。退院後、おむつだった方がトイレ誘導により自立された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れたり、すぐに下剤にて対応せずに、1日1回は便座に座って頂く等の工夫をしながら自然排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に利用者個々の曜日などが決まっているが、本人が別曜日やタイミング的な希望があれば、利用者の希望時間に合わせて入浴する事ができている。	お風呂はシャワー浴で脱衣所の温度や換気に気を付けている。本人の体調や希望に合わせて「できるところは自分で」を基本に支援している。基本は同性介助だが、できない場合は利用者に同意を得ている。シャンプーや石鹸は一人一人の物を家族が用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又一人ひとりの睡眠パターンを把握し、個々に合った時間に誘導し、眠れない場合などは職員が寄り添うなど安眠できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、常に処方箋を確認しながらケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、職員全体で適切に服薬が完了したか確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな作業は内容を説明してお願いをする、終わったあとは感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、外出行事の際に買物をおこなったり、2Fの小規模多機能や屋上へ上がり日光浴を行ったり戸外に出かけるよう支援に努めています。	利用者の体調にあわせ、少人数で2日間に分けてファーマーズマーケットに買い物に出かけたり、気分転換に近隣をドライブしている。2階にある小規模にも散歩に出向き交流している。法人が地域のイベントに協力している為、地域の祭りにも参加することができた。	

沖縄県(グループホーム大道が丘)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、基本、ご家族が管理する事としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に家族や友人などへ電話が出来るように、家族に理解して頂き、本人の希望があれば自由に電話が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた飾りつけと、居室の冷暖房の調整、食事のにおいが伝わるなど、個々に応じた環境作りに努めている。	リビングの配置は入居者が動きやすいような同線を工夫し、棚など職員が手作りしている。壁には季節に合わせ職員と一緒に作った作品が飾られ、手作りの年月日が分かるカレンダーも貼られている。食卓と台所が近く、調理している様子が見え話しかけやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂以外でも、窓際に椅子を置いて、一人で外を眺めたり、気の合う人との交流ができるように席の工夫配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、利用者の思い出や馴染みの物をご家族にお願いして居室に置くなど、できるだけ本人の居心地が良い環境で過して頂けるよう努力している。	居室にはテレビやラジオ、タンスなど使い慣れたものを持ち込み、壁には家族の写真やお気に入りの絵画を飾って入居前からの生活を続けられるようにしている。椅子やソファを置き、居室で家族とゆっくり話しができるよう配置の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や通路、フロー内はバリアフリーになっていて、安全自由に移動できるスペースが確保されている。また、調理場はオール電化製品となっており、直接火気が発生しないような安全面の配慮がある。		